

不動産鑑定士育成へ奨学金制度

鑑定ソリユート熊本

不動産鑑定業の(株)鑑定ソリユート熊本(中央区水道町、江口泰史、河野修治両代表取締役)は4月、不動産鑑定士の受験生を支援する奨学金制度を創設した。専門人材の不足を補い、地方の若手不動産鑑定士育成を図るもので、今年度は第1期生となる1人を内定しており、来年度以降も継続して募集する予定。同社によると、不動産鑑定士育成での奨学金制度は国内初という。

不動産鑑定士は、土地や建物の適正な価格や賃料を評価する不動産分野の国家資格。現在、地方では有資格者の高齢化が進み、20〜30代の若手の担い手確保が課題となっている。制度では、月額15万円の生活支援金と資格予備校の受講料を全学負担。1人当たり総額300万円以上を支援する。合格後に鑑定ソリユート熊本に3年以上勤務、もし

くは不合格でも一定要件を満たせば返済は不要となる。募集対象は1人で、21歳以上38歳以下。第1期生は、ことし8月から来年8月まで1年間を支援期間とする。

江口代表は「鑑定士の高齢化が著しく、大都市圏との人材獲得競争も激化している。制度創設は地方に専門職を残すのが最大の狙い。受験生の経済的負担を軽減し、長期にわたる学習期間を支えたい」と話している。



▲鑑定ソリユート熊本の江口代表(53歳)。「地方で専門職を育て、残したい」と言う。中央区水道町のオフィスで